

令和 7 年 9 月 14 日

タスクグループ：日本の食品安全をリスクマネジメントという観点から解析する

の活動報告

広田鉄磨

1 目的

食品の表示ミスはリコールの第一原因であり、表示ミスを削減することによってフードロスの大きな削減が期待できる。「日本の食品安全をリスクマネジメントという観点から解析する」というタスクグループ名を掲げ 表示ミス削減を筆頭プロジェクトとして 今までの「従業員に一層の注意喚起を求める」といった表層的な対応ではなく 真の原因を掘り出してきて根本的な問題解決を目指すという目標の下 食品企業 8 社に声がけしてタスクグループ活動を開始した。

2 活動記録とアウトプット

• 令和 4 年度

①8社に対して実証実験の場と人材の提供を求めたが、おりしもコロナのピークに向かう前で、各社過剰なほどの自己防衛策に走ろうとしていた時期であり、企業内に外部の人間が入っていくことを好まず場の設定ができなかった。とくに表示のミスを連発し、最大の実証実験の場となるはずであったスーパーマーケットのセントラルキッチンでは、手のかかる惣菜の組み立て作業に携わる人材がコロナにクラスター感染した場合には事業の継続に支障が出ると、外部からの訪問者は事実上のシャットアウトとなってしまった。

• 令和 5 年度

コロナの収束は見えず タスクグループは 解散を余儀なくされた。

3 今後の予定

令和 7 年度になって 漸く平静を取り戻した事業者に対して 再度呼びかけを行っている。

